

子どもの声を聞く方法

第4回「子ども・若者の権利の観点」
からの評価・検証専門部会
令和7年11月13日

資料3

	案1	案2	案3	案4
	ワークショップ形式	インタビュー形式	アンケート形式	グループワーク形式
実施日の指定	土・日	平日（利用者がいる時間帯）	回答期間3週間程度	平日（利用者がいる時間帯）
実施場所	武蔵野大学	テーマに関する施設等	オンライン	テーマに関する施設等
実施回数	全3回+現場視察	各施設1回	1回	各施設1回
実施方法	・第1回目 子ども条例、ワイワイプラン、評価テーマの説明、視察現場の決定 ・現場視察 ・第2回目 現場視察で学んだことを持ち寄って、事業の評価をグループワークする。発表用の資料を作成する。 ・第3回目 発表会	・テーマに沿った施設等に出向いて利用者にインタビューを実施する。 ・事前に日時と場所を設定して利用者を施設に集めてもらい、趣旨を説明をしたうえでインタビューする。	・テーマに沿ったアンケートを専門部会で作成する。 ・回答フォームを作成して、基本的にはオンライン上で回答してもらう。 ・市ホームページ、ポスター掲示（市内小・中学校、市内高校、市内掲示板）、SNS	・テーマに関係する施設を会場とするグループワークを実施 ・事前に日時と場所を設定して参加者を募集する。 ・1日で説明～グループワークまで完了させる。 ①子ども条例、ワイワイプラン、テーマの説明（施設を普段利用しているので施設の理解はあるものとして進める） ②テーマについてのグループワークをして、最後はグループごとにまとめ（発表は行わない）
協力	・企画、運営への協力、ファシリテーターを大学生に依頼する。	・インタビュー内容について大学生に意見をもらう。 ・インタビュアーを大学生に依頼する。	・アンケート作成について大学生に協力を依頼する。（子どもがわかる質問枝か、子どもへの周知方法アイディアなど。）	・企画、運営への協力、ファシリテーターを大学生に依頼する。
考慮が必要なこと	・大学生への事業説明が必要 ・テーマが現場を持っている事業でないと現場視察が難しい場合がある。	・事前学習が必要のないテーマでないと有効なインタビューにならない。 ・インタビュアー側は、事前にテーマの理解、施設の理解が必要。	・事前学習や説明が必要なテーマの場合は説明資料や動画で内容がわかるようにする。	・大学生への事業説明が必要
実施時期	令和8年7月～8月上旬にかけて実施			